

いきいき家族介護教室 受講者募集

介護に関する知識や技術、介護予防、介護者の健康づくりについて学ぶための介護教室を開催します。
高齢者を介護しているご家族の人や、ご近所の協力者、介護や介護予防に関心のある人なら、どなたでも参加できます。興味のある回だけの参加も可能です。お気軽にお申し込みください。

●介護について学んでみませんか？

定員・各会場約30名。
参加費・無料。(※ただし第4回の調理実習のみ、材料費500円程度自己負担あり。)
申込み・問い合わせ・杵築市役所(山香庁舎)高齢者支援課に、電話かファックスでお申し込みください。
【電話:0977-75-1111 ファックス:0977-75-1911】
※お申し込みの際は、ご希望の会場名・住所・氏名・電話番号をお伝えください。
※応募は随時受け付けています。第4回のみ、材料の準備がありますので、早めにお知らせください。

	杵築会場 (きつき生涯学習館)	山香会場 (庁舎2階会議室)	大田会場 (大田中央公民館)	テーマ・講師紹介
第1回	9月11日(火) 9時半～12時	9月13日(木) 9時半～12時	杵築・山香会場のどちらかに、ご参加ください。	●開講式 ●若年性認知症(認知症の接し方) 講師:認知症と家族の会
第2回	9月18日(火) 9時半～12時	9月25日(火) 9時半～12時	9月27日(木) 9時半～12時	●健康なお口をいつまでも (お手入れ術・健口体操) 講師:歯科衛生士 津守 眞智子氏
第3回	10月23日(火) 9時半～12時	10月25日(木) 9時半～12時	10月30日(火) 9時半～12時	●たいせつなあなたに (言葉からのメッセージ) 講師:社会福祉士 明石 二郎氏
第4回	11月6日(火) 9時半～13時	11月9日(金) 9時半～13時	11月20日(火) 9時半～13時	●食べることはとても大切なこと (認知症予防食) 講師:管理栄養士 佐藤 恒子氏
第5回	11月22日(木) 9時半～12時	11月27日(火) 9時半～12時	11月29日(木) 9時半～12時	●自宅でもできる介護術 (移乗・移動ちょっとしたコツを学びましょう) 講師:理学療法士 毛井 敦氏
第6回	12月13日(水) 14時～16時	12月11日(火) 14時～16時	12月14日(金) 14時～16時	●あなたの健康も大切です(こころも体もかるやかに) 講師:健康運動指導士 渡辺 玲子氏 ●閉講式

幼い命を車内放置事故から守りましょう



子どもの車内放置は「児童虐待行為」です

※画像はイメージです。保護者立会いのもと、安全に留意して撮影しています。

InfoFile 09 ●問い合わせ
杵築市役所建設課
TEL0978-62-3131

木造住宅の無料簡易 耐震診断を実施します

杵築市が、県・建築士会と協力して、ご自宅の簡易耐震診断を行います。

簡易耐震診断は、正式な耐震診断ではありませんが、住宅のどのようなところに、地震に対する強さや弱さがあるのかを調べることができます。

簡易耐震診断の結果が悪い場合、正式な耐震診断を受けることをおすすめします。

対象・昭和56年5月31日以前に建築された木造一戸建て住宅(併用住宅で、住宅部分の面積が1/2以上のものを含む)

日時・9月10日(月)～14日(金)
※詳細な日時については、ご希望をお伺いしたうえで決定します。

募集戸数・5戸

申込み締切・8月28日(火)

申込み・建設課(☎0978-62-3131)建築・住宅係
その他・簡易耐震診断は、市職員等がご自宅に伺い、1時間程度で行います。ご自宅の図面がある場合は、当日ご用意いただけると短時間で実施できます。お気軽にお問い合わせください。

InfoFile 10 ●問い合わせ
杵築市商工会
TEL0978-62-2539

「ど〜んと商品券」 ご使用はお早めに！

下記の「ど〜んと商品券」がお手元にございましたら、有効期限が迫っておりますので、ご確認のうえ、お早めにご使用ください。

なお、有効期限を過ぎた「商品券」は、無効となります(ご使用も換金もできません)ので、お気をつけください。

問い合わせ・杵築市商工会(☎0978-62-2539)

【対象となる商品券】

★平成24年3月4日発売分

(有効期間 平成24年8月31日まで)

花のメルヘン

どろぼう あみださま
泥棒と阿弥陀様

芝尾 貴佐子
お母さん読書研究会

「ほら、ごらんなさい。阿弥陀様の額に刀傷があるでしょう。」
老和尚は、寺を訪れた人にこう語りかけます。
和尚の人徳を聞いて、時折この山寺を訪ねる人がいます。和尚は、物静かな口調で話しはじめました。

昔、都に源次という大泥棒がいました。
幼いころ身なし子となり、ならず者に拾われ成長した源次は、目つきの鋭いつばしの泥棒になりました。
疾風のように盗みを働き、金持ちをおびえさせていました。役人は、源次を捕まえようと、国中におふれを出し、多額の賞金をかけました。
都を追われ、山深い村にたどりついた源次は、自分の生い立ちや世の中にいらだち、トオマキニ眺める村人を、に

らみつけました。
やがてしばらくして、子どもが話しかけると、少し口元をゆるめるようになりました。
ある日、山の上から子どもの声がするので、源次は石段を登りました。
すると、お堂があり、阿弥陀様がまつられていました。
源次は始めて見る慈愛に満ちた姿に思わずひき寄せられ、手を合わせました。いつしか心は静まり、母の胸に抱かれたような安らぎを感じました。
その日から、源次は変わ

りました。村人に声をかけ、畑仕事の手伝いもしました。
嵐のとき、川に流された子どもを助け、村人から信頼されるようになりました。
しかし、ついに追手がやって来しました。お堂の前まで追いつめられた源次の頭上に、刀が振り下ろされ、体に衝撃が走りました。意識を失う瞬間、源次は阿弥陀様を見たような気がしました。
どのくらい経ったのか、我に返ると、あたりは静まり返っていました。

源次はあわてて阿弥陀様のもとに駆け寄りました。
阿弥陀様はいつものように穏やかな微笑みを浮かべていましたが、額には生々しくえぐられた傷ができていました。
源次は、阿弥陀様にすがって泣きました。
話し終えた和尚は、昔を思い出したかのように、阿弥陀様を見ました。その目には、源次の若き日の強いまなざしが残っていました。

